

直前一橋大地理

【3 回目】



添削課題

【1】

解答例

問1 高度経済成長により重化学工業が太平洋ベルトに立地したが、後に機械組立工業が賃金や地価の高い大都市から分散し、従業者数・出荷額の偏在性が低下した。一方、中小企業は三大工業地帯に多く立地したが、石油危機以降、産業構造の転換と電子・ハイテク産業の立地の分散が進み、事業所数の偏在性も低下した。(143字)

問2 Aは原料指向型の窯業・土石製品の比重が高い産地型、Bは事業所規模が大きく、労働力指向型の輸送用機械器具の比重が高い企業城下町型、Cは出版・印刷や金属製品などの零細企業が集積する都市型集積である。(97字)

問3 原燃料や部品の調達費の節約、港湾・道路・用水などインフラの共同利用による製造コストの削減が可能で、専門的な知識・技能を有する人材の育成や確保も容易である。また、異業種を含む企業間の競争や技術交流・情報交換により技術革新や新製品開発が進み、産地ブランドが確立し、総合的な競争力を強化できる。(144字)

解説

《日本の産業集積》

問1は各項目の数値がピークとなっている年代のズレから、重化学→機械組立→ハイテクという産業構造の転換に気づくかどうかポイントである。問3は問2を参考に、具体的な集積の利益を様々な視点から考えたい。

問1.

図I-1では、1950年代に急激に数値が伸び、1960年に出荷額と従業者数の数値が最高になっている。図の注より、この時期に出荷額・従業者数が特定地域へ集中していると考えられる。1950年代後半の日本は高度経済成長期に当たり、首都圏・中京圏・大阪圏を中心に大規模な設備投資が行われたために数値が高くなっている。1960年代に入り、全国総合開発計画による拠点開発方式により全国各地に新産業都市や太平洋ベルト内に位置する工業整備特別地域などが設置された。その後、太平洋ベルトを中心に自動車・電気機械などの機械組立工業が日本の経済を牽引するようになると、地価や賃金の上昇した大都市を避け、部品や製造の輸送に便利な北関東や近畿内陸など、既存工業地域の隣接地域に立地していった。こうして従業者数・出荷額の地域的な偏在性は低下していった。

従業者数・出荷額数の偏在性の低下よりも事業所数の偏在性の低下が遅れたのは、出荷額や従業者数は多いが事業所数が少ない大企業の移転が先に進み、後に中小企業の移転が進んだからと考えられる。中小企業などは三大工業地帯、とりわけ東京城南地域や東大阪地域などの住宅と工場が混在する市街地に多く立地していたが、1970年代の石油危機や、1990年代のNIEs（新興工業経済地域群）など低賃金地域との競争で低迷する。代わって、製品が軽量・高付加価値で売価に占める輸送費の割合が小さい電子・ハイテクなどの小規模なベンチャー企業が地方空港の近くや高速道路沿いなど各地に立地したため、結果として事業所の偏在性も低下していった。また、近年では発達した通信技術を利用し、消費市場からの距離に影響されない

産業も見られるため、より立地の分散化が進むと考えられる。

問 2.

Aは窯業・土石製品が事業所数の約61%を占め、その1事業所当たりの平均従業者数は約6.7人である。また、原料の陶土や石灰岩などは産出地が限られ、典型的な重量減損原料であるため製造コストに占める原料輸送費の割合が大きいこの業種は、代表的な原料指向型（資源立地型）工業である。ここから、同じ原料を用いる零細な同業者が集中している産地型集積とわかる。Bは従業者数の約69%が輸送用機械器具に関わっており、その1事業所当たりの平均従業者数は約253人と多い。自動車工業は典型的な総合組立工業で、周辺に一般機械器具・金属製品・電気機械器具・プラスチック製品などの部品工場を抱える企業城下町型集積とわかる。Cは最大の金属製品でも事業所の約27%に過ぎず、他に一般機械器具やプラスチック製品も多い。また出版・印刷も比較的多く、それらの従業者規模は10人前後と小規模であることから、零細企業が多い、大都市または大都市に隣接する都市型集積とわかる。なお、Aは製陶のまち瀬戸市、Bはトヨタ自動車を擁する豊田市、Cは金属加工などの町工場が多い東大阪市である。

問 3.

一般に産業が集積すると交通・通信・工業用水など社会資本の共同利用が可能となり、製造コストの削減につながる。また、産地型集積や企業城下町型集積では、原材料や部品の域内調達が容易で原料調達費を節約でき、有能な専門技術者・職人を確保しやすい。さらに産地型集積では、同業者間の競争が技術向上や新製品開発に結びつき、瀬戸の陶器、燕の洋食器、関の刃物、鯖江のメガネなど、産地ブランド確立につながる。また競争による技術向上は、企業城下町の下請け同業者間にも期待できる。本問では、統合効果・累積効果などの用語でまとめてもよいが、表面的な説明だけでなく、その意味を理解しているか否かも試されるので、そうした用語を使わずとも効果の内容自体を平易な言葉で具体的に挙げればよい。

【配点の目安】（配点 50 点）

問 1（17 点）

＜重化学工業について＞

- ①高度経済成長 …… 2 点
- ②重化学工業が太平洋ベルトに立地した …… 3 点
- ③（後に）機械組立工業が分散した …… 2 点

※ 1960 年以降、従業員数・出荷額の偏在性縮小に影響した製造業を指摘する。

- ④（③の理由として）賃金や地価の高い大都市（から分散した） …… 2 点

＜中小企業について＞

- ⑤中小企業は三大工業地帯に多く立地した …… 2 点
- ⑥石油危機以降 …… 2 点
- ⑦電子工業が分散立地した、もしくは、ハイテク産業が分散立地した …… 2 点

※事業所数の偏在性縮小に影響した製造業を指摘する

- ⑧（⑦の理由として）産業構造の転換 …… 2 点

問2（15点）

< Aについて >

① Aは産地型（集積） …… 2点

②（①の理由として）

原料指向型 …… 1点

窯業・土石製品の比重が高い …… 2点

< Bについて >

③ Bは企業城下町型（集積） …… 2点

④（③の理由として）

事業所規模が大きい、もしくは、労働力指向型 …… 1点

輸送用機械器具の比重が高い …… 2点

< Cについて >

⑤ Cは都市型（集積） …… 2点

⑥（⑤の理由として）

出版・印刷、もしくは、金属製品など …… 2点

零細企業が集積する …… 1点

問3（18点）

①産業集積の統合効果を（3つ以上）指摘する

「原燃料や部品の調達費の節約」「港湾・道路・用水などインフラの共同利用」

「製造コスト（生産費）の削減」「専門知識・技能を有する人材の（育成や）確保」

……各3点／計9点

②産業集積の累積効果を（3つ以上）指摘する

「（企業間の）競争による効果（技術交流、情報交換）」「技術革新（製品開発）」

「産地ブランドの確立（競争力の強化）」 ……各3点／計9点

【2】

解答例

- 問1 1 シルクロード 2・3 BS・BW (順不同) 4 遊牧 5 イギリス
6 アフガニスタン 7 テンシャン 8 カシュガル (カシ) 9 清
10 シンチヤンウイグル 11 綿花 12 シルダリア 13 アムダリア
14 アラル 15 カスピ 16 原油 17 フェルガナ
18 集団農場 (コルホーズも可) 19 カザフスタン 20 タシケント
21 ウズベキスタン 22 ロシア 23 自動車 24 キルギス 25 観光
26 漠 27 ウルムチ 28 アルマトイ

問2 国境線が複雑であり資源利用や交通網の整備など各国の統一性がとれず地域開発の妨げとなる。民族分布を無視した人為的国境のため同一民族の分断や少数民族の存在などの問題があり、政情が不安定になりやすい。(97字)

問3 韓国企業は政府の援助を背景に、他国の企業が未進出の国へも進出する傾向が強い。ウズベキスタンは第二次世界大戦前に極東地域から強制移住させられた朝鮮民族が居住し、民族的なつながりも進出の背景である。(97字)

問4 国際的にはロシアとの関係が低下し、中国や西欧諸国との関係が強化される。また国内では外国からの投資が拡大し市場経済化も進展するが、交通ルート沿いの地域の開発の進行と他地域との間に経済的格差が発生する。(99字)

解説

《中央アジアの地誌と地政学的位置》

問1.

1. 中国とヨーロッパを結ぶ東西交易路のこと。中央アジアのオアシスを結ぶオアシスロード、より北方のステップロード (草原の道)、南方の海上のルートなどがあるが、一般にはオアシスロードをさす。

2・3. 中央アジアにはタクラマカン砂漠、カラクーム砂漠、キジルクーム砂漠などがあり、その周辺は短草草原のステップが分布するため、気候区分もそれに対応する。

4. 定住地を持たず、水や草を求め家畜とともに移動する牧畜形態のことを遊牧という。中央アジアでは馬・羊・ラクダなどが飼育され、トルコ系の遊牧民族が多い。

5・6. 文中の「グレートゲーム」とは、19世紀の中央アジアで発生したロシア帝国と大英帝国の政治的な勢力争いをさす。アフガニスタンでは18世紀にアフガニスタン王国が形成されていたが、ロシアの南下政策に対してインドを植民地化していたイギリスはアフガニスタンを保護領として、ロシアに対する緩衝地帯としての役割を担わせた。

7. テンシャン山脈は中国のシンチヤンウイグル自治区とキルギスの間に東西に伸びる山脈である。古期造山帯に属するが、アルプス=ヒマラヤ造山帯の造山運動の影響を受け再隆起して高峻化したものである。

8・9. カシュガル (カシ) はタリム盆地の西部に位置するオアシス都市であり、現在はシンチヤンウイグル自治区の一部である。テンシャン山脈やパミール高原を越える東西交渉史上の重要な拠点であった。19世紀に存在したコーカンド汗国はトルコ系ウズベク人による国家

であったが、国土の大半が1876年にロシア帝国に併合された。またカシュガルを中心とする地域は同時期に清朝に併合されている。

10. シンチヤンウイグル自治区はトルコ系ウイグル人を主体に、移住してきた漢民族も多く居住している。1944年には旧ソ連の支援によって東トルキスタン共和国が成立したが、戦後は中国の領域となったため、漢民族の大量移住政策に対する反発も強く、現在は中国からの独立運動も発生している。

11～14. アラル海はかつて世界第4位の面積を誇る湖であったが、縮小が進み、現在、アラル海は北側の小アラル海と南側の大アラル海に分裂し、さらに大アラル海は東西に分裂している。その原因は旧ソ連時代に進行したカラクーム運河の建設にある。カラクーム砂漠やキジルクーム砂漠の緑地化と農業開発のためにアラル海に流入するアムダリア川・シルダリア川からの取水量が増加し、アラル海に対する流入水量は激減した。その結果、塩害の進行・沿岸漁業への深刻な影響などが発生した。

15・16. カスピ海の周辺は南部地域を中心にアルプス＝ヒマラヤ造山帯が通るため、褶曲山地と背斜構造が生じて原油や天然ガスが多く存在する。19世紀末から開発が進行したバクー油田は旧ソ連最大の油田であったが近年は枯渇化が進んでいるため、沿岸部よりも湖底油田の開発が注目されている。しかし、資源の開発をめぐりカスピ海の法的地位をめぐってロシア・アゼルバイジャン・カザフスタン・トルクメニスタン・イランなどが対立し、パイプラインの建設をめぐってアメリカ・ロシア・中国・イラン・トルコなどが対立している。

17. フェルガナ盆地はウズベキスタン東部に位置する盆地であるが、周囲をキルギスに囲まれており飛び地のような形態になっているが、国内の人口集中地帯である。

18. 社会主義体制では、土地・資本・労働力が公的所有となり、国家主導の計画経済の下で生産と消費が管理される。農業もコルホーズ（集団農場）とソフホーズ（国営農場）に分かれ、農業労働者による生産手段の共有化によって行われていた。連邦解体後は土地の私的所有が進行している。

19. カザフスタンは中央アジアのステップと砂漠から成る国で、面積272.5万km²（2011年）、人口1,627.1万人（2012年）であり、民族はカザフ人63.1%、ロシア人23.7%（2009年）などによって構成される。北部の春小麦、南部の綿花栽培は旧ソ連の中でも主力の生産地帯であった。近年は外資導入によるカスピ海沿岸の油田開発が進展している。

20～23. ウズベキスタンは中央アジアのパミール高原からアラル海にかけて領土を持つ国で面積44.7万km²（2011年）、人口2,854.1万人（2012年）で、ウズベク人80%、ロシア人5.5%（1996年）、タジク人などによって構成される。旧ソ連時代にカフカス地方から移住させられた人々とウズベク人の間に対立が生じた。綿花の世界的生産国でありタシケントを中心に綿工業が発達している。このタシケントとサマルカンドはいずれもシルクロード上のオアシス都市として古くから栄えてきた。

24・25. キルギスは中央アジアのテンシャン山脈からパミール高原にかけて領土を持つが北にカザフスタン、南にタジキスタン、東は中国、西はウズベキスタンに囲まれる20.0万km²（2011年）の国で、人口547.4万人（2012年）、キルギス人70.9%、ウズベク人14.3%、ロシア人17.8%（2009年）となっている。国内には目立った産業がないため周辺諸国との関係を強化し、経済援助を求める傾向があり、1998年にはWTO（世界貿易機関）にも加盟し、積

極的な民主化と経済改革をすすめているが、現在では国内の産業も低迷している。

26. 現在のシンチヤンウイグル自治区の民族構成（2000年）は、ウイグル族45.2%、漢族40.6%、カザフ族6.7%、ホイ族4.6%の他キルギス、モンゴル、満、トゥチャ、ミャオ族などが居住し、人口は2,095万人（2007年）となっている。

27. シンチヤンウイグル自治区の区都はウルムチであり、テンシヤン山脈の北東麓、海拔947mに位置し、自動車交通や蘭新鉄道の要地でもあり周辺では石炭、石油などの地下資源が開発され、石油化学・紡績などの産業が発達している。

28. アルマティはカザフスタンの前首都（現在の首都はアスタナ）。テンシヤン山脈西麓のオアシス都市で、食品工業や繊維工業が見られる。カザフ語でアルマティは“りんごの父”を意味し、郊外では果樹栽培もみられる。

問2.

旧ソ連時代に制定された中央アジア諸国の共和国国境は、本来の民族分布を無視した上置境界であり、フェルガナ盆地とその周辺の国境が典型例である。複雑な国境線によって分断された民族は、各国において自治の確立や同一民族の再統合を求める動きを起こす。国内にこのような民族紛争を内包させることで、各共和国の連邦からの自立を妨げようとしたのである。中央アジア諸国の国名は民族名が使われているが、各国とも自国の周辺に位置する他国の民族を内包し、ウズベキスタンとタジキスタン、アルメニアとアゼルバイジャンなどの例がよく知られている。

また、複雑な国土の形状は国内の統一的な交通体系の形成を阻害し、産業や国民の生活も圧迫し、国力を減退させる要因となる。その一例として、旧ソ連時代においては、シルダリア川下流に位置するウズベキスタンとカザフスタンは国内で灌漑用水をまかなうことができず、上流に位置するキルギスがシルダリア川に建設したダムで放流調整を行い、その見返りとしてウズベキスタンは天然ガス、カザフスタンは石炭をキルギスに供給していた。共和国間の協力がなされていたと考えることもできるが、見方を変えれば相互依存の経済関係であり、連邦内においては一共和国の経済的自立は困難であったと考えることができる。

問3.

韓国では1990年代以降になると、政府によって優遇された業種が特に発達し、国内三大財閥の現代・三星・大宇が大きく成長した。国内の産業の発展は労働者の賃金水準を上昇させたため、安価な労働力や新たな市場を求めて企業の海外展開も行われるようになったが、政府の公的支援もあるため、他国の企業があまり進出していない地域へも積極的に進出する傾向が強い。

本文ではウズベキスタンと韓国との関係性も問われていたが、この地域には少数ながら朝鮮人が居住していることも背景の一部である。旧ソ連時代の第二次世界大戦前、日本の扇動によって極東地域に居住する連邦内の朝鮮人が、当時は日本の植民地であった朝鮮半島に居住する朝鮮人と連動して反ソ連的な行動をおこすことを危惧した連邦政府は、1937年に沿海州に住む朝鮮人10万人を中央アジアのウズベキスタン・カザフスタンなどに強制移住させた。このため現在でも中央アジアに少数の朝鮮民族が居住することもあり、経済の自由化が進展するにつれて韓国企業の進出も増加している。

問4.

本文中の下線部Bのルートはいずれも中国とヨーロッパを結ぶ鉄道のルートである。この路

線が中央アジア諸国を通過することになれば、中央アジア諸国と中国・西ヨーロッパ諸国との関係が強化され、相対的にロシアとの関係が低下することが考えられる。

トルクメニスタン・ウズベキスタン・カザフスタン・タジキスタン・キルギスの中央アジア5カ国は1992年にE C O（経済協力会議）に加盟し、トルコやイランなど非アラブ・イスラム諸国との経済協力関係の強化を図っており、2001年にはウズベキスタン・カザフスタン・タジキスタン・キルギスの4カ国がC A U（中央アジア共同体）を結成し、各国の協調関係を構築しようとしている。しかし、他の問題でもみたように複雑な国境と民族分布は経済開発にとってはデメリットが大きく、同一国内においても開発が進行する地域とそうでない地域との経済格差もあり、一方でグローバリゼーションが進行するなかで、国内には不均等開発の問題が立ちはだかっている。

【配点の目安】（配点 50点）

問1（各1点／計28点）

問2（8点）

＜問題点1＞

- ①国境線が複雑 …… 1点
- ②（①により）資源利用や交通網の整備など各国の統一性がとれない …… 2点
- ③（②の結果として）地域開発の妨げとなる …… 1点

＜問題点2＞

- ④民族分布を無視した人為的国境 …… 2点
- ⑤（④により）同一民族の分断や少数民族の存在などの問題がある …… 1点
- ⑥（⑤の結果として）政情が不安定になりやすい …… 1点

問3（7点）

＜理由1＞

- ①韓国企業は政府の援助 …… 2点
- ②（①により）他国の企業が未進出の国へも進出する傾向が強い …… 2点

＜理由2＞

- ③ウズベキスタンは朝鮮民族が居住する（民族的なつながりがある） …… 2点
- ④（③の理由）第二次世界大戦前に極東地域から強制移住させられた …… 1点

問4（7点）

- ①国際的にはロシアとの関係が低下 …… 2点
- ②中国（や西欧諸国）との関係が強化される …… 1点

※「中国」「西欧諸国」いずれかを指摘すれば可。

- ③国内では外国からの投資が拡大（し市場経済化も進展する） …… 2点
- ④交通ルート沿いの地域の開発の進行と他地域との間に経済的格差が発生する …… 2点



会員番号

氏 名